

不登校を乗り越えて

目指すはオリンピック

ひとつの負けで不登校に

僕は3歳から猪名川レスリングクラブでレスリングを始め、今年の4月からは東洋大学レスリング部の一員として、大学でのレギュラー奪取、オリンピック選手を目指して競技を続けます。

そんな僕ですが、中学2年生の頃に不登校になってしまい、学校

へ行くことができなくなり、レスリングの練習も全くできない時期がありました。

きっかけは、中学2年生の時の全国大会での敗戦でした。猪名川レスリングクラブは強豪選手が多く、同級生や先輩も全国大会優勝経験者が多数在籍していました。そのような環境のおかげで、僕も成長することができたのですが、

辻悠人さん (18歳)

猪名川小学校→猪名川中学校→猪名川高等学校→東洋大学
—主な成績—

2019年全国少年少女レスリング選手権大会 42kg級優勝、
2024年近畿高等学校レスリング選手権大会 65kg級優勝、
2024年全国高等学校レスリング選手権大会 65kg級第3位

© KOTONE NARIKUNI

同時に、常に強豪選手と結果で比べられることが当たり前でした。この大会で負けて、周りから「○○くんは勝ったけど、悠人は負けたの？」と言われることが辛く、人と会うことが怖くなってしまいました。心配してくれる家族や友人、レスリングの仲間への罪悪感もあつたのですが、どうしても学校やレスリングに行けませんでした。

周りの人に助けられて

僕が立ち直れたきっかけは、テレビで見た不登校の人の体験談でした。「僕より大変な事情を抱えて学校に行けなくなっている

人たちがたくさんいる」と思い、3学期からは少しずつ学校やレスリングにも行けるようになりました。また、友人や仲間もそんな僕のことを温かく迎えてくれ、そのおかげで何とか立ち直ることができました。

支えられる側から支える側に

大学では、これまで僕を指導していた猪名川高校の浅井先生、猪名川レスリングクラブの池畑監督や増谷コーチをはじめとする指導者の皆さん、友人、仲間たちへの感謝を胸に、しっかりとレスリングや勉強に励むことで、恩返しをしていきたいです。

また、テレビやニュースで、様々な事情を抱えて不登校になってしまつ子の話を見聞きすることがあります。そういう子たちに「不登校でもやれるんだ」という姿を見てもらい、励みにしてもらえようような活躍ができるように頑張ります。

そして、お父さん、お母さん、18年間どうしようもない僕をここまで育ててくれてありがとう。「龍ちゃん（川西市西畦野）」で大好きなチャールハンを作ってくれた叔母さんもありがとう。これからは迷惑をかけるけど、応援よろしく願います。

猪名川町の皆さんも応援よろしく願います！

猪名川高校レスリング部の仲間たち

